Officina della Scrittura

＜オフィチーナ・デラ・スクリットゥーラ＞

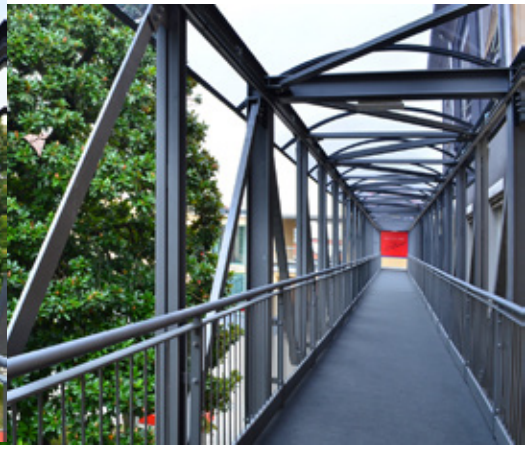
「書く事」に関するミュージアム

イタリア・トリノ市に、2016年10月1日、世界で初めてとも言える、「書く事」やその文化をテーマにしたミュージュアムが落成しました。

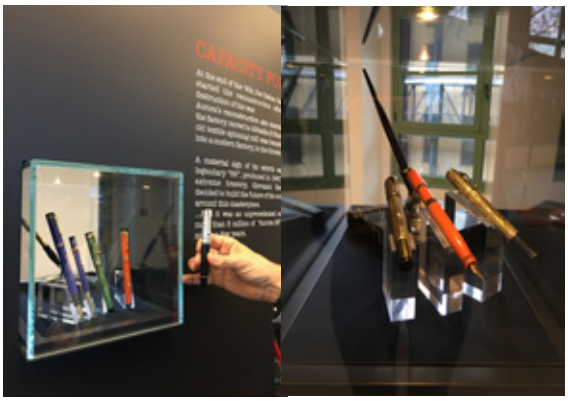
OFFICINA DELLA SCRITTURA＜オフィチーナ・デラ・スクリットゥーラ＞は、意思伝達手段としての「書く事」の起源と、それを実現するために発展した種々の発明や、その歴史を展示・解説するプロジェクトとして始められました。

OFFICINA DELLA SCRITTURA＜オフィチーナ・デラ・スクリットゥーラ＞は、「書く事」に関連することが解る場。すなわち、有史以前の「アート（しるし）」から始まる意思伝達に関するものが、すべてが展示され、「書く事」の素晴らしさを伝える「知識のよりどころ」ともいえる場所です。

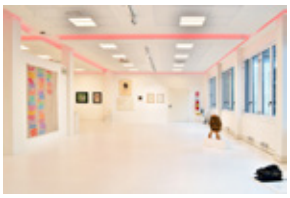
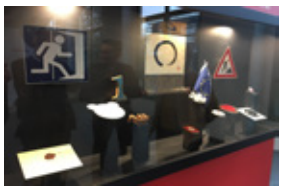
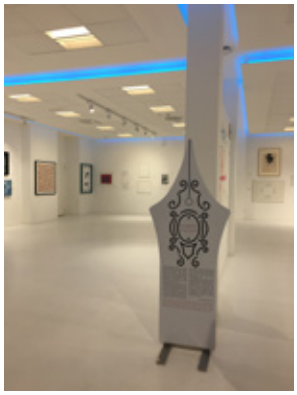
OFFICINA DELLA SCRITTURA <オフィチーナ・デラ・スクリットゥーラ> は、イタリアの代表的な万年筆メーカーであるアウロラ社のCEOであり、熱狂的な筆記具コレクターとしても知られ、「書く事」の歴史を熱く語る、チェザレ・ヴェローナの長年の夢を実現するために、17世紀のトリノの製粉所跡に建てられたアウロラ社の本社工場に併設されています。



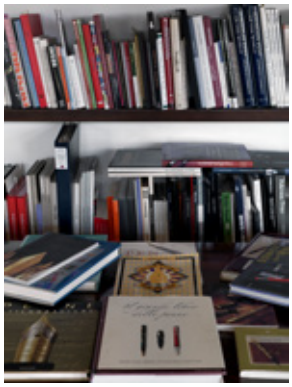
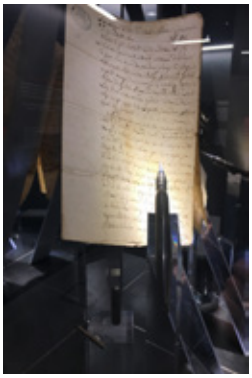
OFFICINA DELLA SCRITTURA <オフィチーナ・デラ・スクリットゥーラ> は、「書く事」に大きな関心を持つ筆記具の愛好家が、「書く事」のすばらしさを知り、学び、楽しむことが出来るように、技術と伝統の結びつきを体系的にアプローチできる場所です。また、このミュージアムを作るために2004年に設立された団体「Aurea Signa」の長年にわたる研究と調査による成果ともいえます。

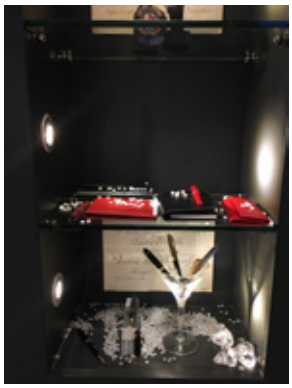


OFFICINA DELLA SCRITTURA<オフィチーナ・デラ・スクリットゥーラ>の目的の一つは、手を使って「しるし」を創り出す人類の能力を科学的に研究し、「書く事」が 創造的かつ知的な人類の進歩であるということを証明することです。2500㎡ (約760坪) を超えるスペースには「書く事」に関する事柄が、各展示室ごとに、テーマ別・体系的に分類・展示されています。「書く事」の発達を象徴する筆記具、即ち万年筆の展示室には、現在の万年筆の原型となった「ウォーターマン」から、MOMA(ニューヨーク近代美術館)に展示されているマルコ・ザヌーソのデザインによる「Hastil (アスティル)」に至るまで、その発展の歴史に沿って、さまざまなメーカーの万年筆が展示されています。

OFFICINA DELLA SCRITTURA <オフィチーナ・デラ・スクリットゥーラ> の最も重要な目的は、教育です。すべてのエリアで、カリグラフィーや絵画をはじめ、「書く事」に関するあらゆる事柄が、小学生から大人に至るまで、様々なスタイルおよびレベルの教育活動に利用されています。展示室は、エルマンノ・テデスキーによって企画され、「 Scripta Volant (話し言葉は飛び去るが、書いた言葉は残る)」というラテン語のことわざをテーマに、図書室・ホール・ミュージアムショップ・カフェテリア・レストランなどに至るまで、様々な場面で、「人類のしるし(書く事)」が関連づけられています。また、このミュージアムでは、創業約100年を経たアウロラ社の本社工場のいくつかの生産工程でのレベルの高い作業が公開されており、ワークショップでの技術的な体験を通じて、若い技術者を育成したり、それを目指す若者を養成する場ともなっています。



OFFICINA DELLA SCRITTURA <オフィチーナ・デラ・スクリットゥーラ>の目的は、アウロラ社のCEO チェザレ・ヴェローナによると、進化し続ける「書く事」の使用方法・習慣・ファッション・トレンドを説明する「手引き」を創り出すところであり、また、イタリアに於ける文化的・文学的・芸術的な素晴らしさを常に追求する場でもあります。こうした「書く事」の徹底した研究は、書くための媒体やその道具を通じて「書く事」の歴史を、このミュージアムでのユニークな体験から発見することができるでしょう。
また、その体験を通じて、現在の高度にデジタル化したテクノロジーの時代に於いてすら、「書く事」の魅力と重要性を維持させ続けることでしょう 。